

国土交通省 道路局  
局長 宮田 年耕 殿



## 中期的計画の意見書

鹿児島県 川辺町

## 中期的な計画に関する意見書

本町の道路行政につきましては、平素から格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

道路は地域経済の活性化・教育・福祉といった生活環境の向上を図る上で最も重要な社会資本整備であり、今後地方の活力あるまちづくりにも欠かせない重要な要素であります。

また、大型地震等の災害による集落の孤立を防ぐためのバイパス機能など、危機管理の上からも大事な施策の一つであります。

これまで道路整備を促進するため、道路特定財源の確保を強く要望してきたところでありますが、昨年12月に閣議決定された「道路特定財源の見直しに関する具体策」では、道路整備に対するニーズを踏まえその必要性を精査し、真に必要な道路整備は計画的に進めるとありますが、渋滞や環境問題などの解決が重要課題であることはもちろんのことですが、地方で社会活動を営む者にとっては、電車や地下鉄など多様な交通手段を利用できる都市圏と異なり、通学・通勤・通院・買い物など車は生活の必需品であり、車なしでは生活を営むことができないのが現状で、自動車専用道路や国県道はもとより生活に密着した市町村道に至る道路の整備は必要不可欠であります。

本町においても、まだまだ道路整備が遅れており、住民は行政に対し地域間を結ぶ幹線道路や生活道路の整備、高齢者や児童生徒など歩行者の安全対策のための歩道の整備など、生活に最低限必要な道路の整備を強く望んでいます。

本町では、現在、颯娃町・知覧町・川辺町による三町合併を控え、合併した三町が一体的な発展をしていくためにも、三町間を連結する道路整備が急務となっております。

また、薩摩半島南部と県都鹿児島市を結び九州自動車道と連結する地域高規格道路「南薩縦貫道」は南薩地域の中核としての役

割を担っており、これを基軸とした新市と周辺市を結ぶ広域交通網の整備は、新市のまちづくりの根幹となるもので、計画的な整備が強く望まれております。

今回の道路特定財源の見直しにより、地域間格差がさらに拡大するのではと危惧しており、生活者の視点に立って地方の実情を精査し、地方の声を組み入れた道路整備を進めていただきたい。

平成19年5月2日

川辺町長 東展弘

